

vol.44-12 (通算 501 号)

2015年3月号

やどかり

2015年3月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 土橋 敏孝
〒337-0043
さいたま市見沼区中川 562

TEL 048-686-0494

FAX 048-686-9812

定価 50円 (含会費)

2014年度やどかりの里総括会議開催

つながる力で厳しい情勢と対峙

今年度も残すところあとわずかとなった。2月14日、社会の動きを共有しながら、今年度の活動を振り返る総括会議がやどかり情報館で開催された。メンバー、家族、職員53人が参加し、情勢報告、権利条約と実践を照らした報告を受け、グループ討議・全体討論を行った。

情勢報告では、制度の持続可能性や経済を最優先する政策が拡大し、速いスピードで社会保障が崩されようとしていること、中でも生活保護の生活扶助基準切下げ、住宅扶助の切下げなど、貧困や格差を生み出す仕組みがあることを改めて確認した。

社会情勢は極めて厳しい状況であるが、法人全体としては、生活保護訴訟でメンバー6人が原告に立ち、法人全体で社会保障の切下げに対する運動を展開してきたこと、病棟転換型居住系施設に対する運動に積極的に参画し、運動の力を確認し合った。そして、障害者権利条約（以下権利条約）を活動の物差しにしつつ、社会保障後退に対抗する地域実践・運動を展開してきたことが報告された。

今年度の総括会議で特筆されることの1つは、メンバー交流会の企画会議を通して、各部署を代表するメンバーが、企画に主体的に関わり、法人理事の推薦や45周年記念式典実行委員会に委員を選出してきたプロセスを報告したことだ。企画会議に参加しているメンバーが、互いのさまざまな背景を知り、多様性を認め、ともに活動を担うことで主体性が育まれていること、そしてその場が自己実現の機会となっていることが語られた。家族の会である浜砂会では今年度「家族による家族学習会」をNPO法人地域精神保健

福祉機構コンボと共催で開催し、家族自身が学び合い、元気を保つための学習の機会を創り出している。

生活支援の現場では、サービス利用のための計画相談に追われつつも、それをきかっけにつながりが生まれ、地域で孤立しないための支援、更なる退院支援を促進する仕組みづくりなど、取り組むべき課題が見えてきた。

暮らしの場では精神科以外の医療機関や介護領域との連携が不可欠な現状が報告された。地域で自分らしい生活を選択できるよう、住まいのバリエーションを増やすこと、65歳となっても機械的に介護保険制度に移行するのではなく、本人が必要とする支援が受けられること、どんな世代でも活躍できる場があることの必要性が話された。

労働支援では、十分な所得を得られているメンバーがごくわずかであること、小型家電リサイクル事業や農業と福祉を推進するプロジェクトなど新規事業導入により、メンバー1人1人が活躍できる場を増やし、工賃向上を目指していることが報告された。フットサルやコーラスといった権利条約30条にある文化的な生活を充実させる取り組みも行われてきた。討議では厳しい社会情勢に対峙しながらも、権利条約を指標にしつつ、諦めることなく活動しているやどかりの里の1年を共有した。

「1人1人が主人公」という活動理念を大切に、さまざまなつながりを大事にしながら、活動は広がっている。つながる力を大切に、今後のビジョンをいかに具体的に描いていくかが来年度に引き継ぐ課題である。